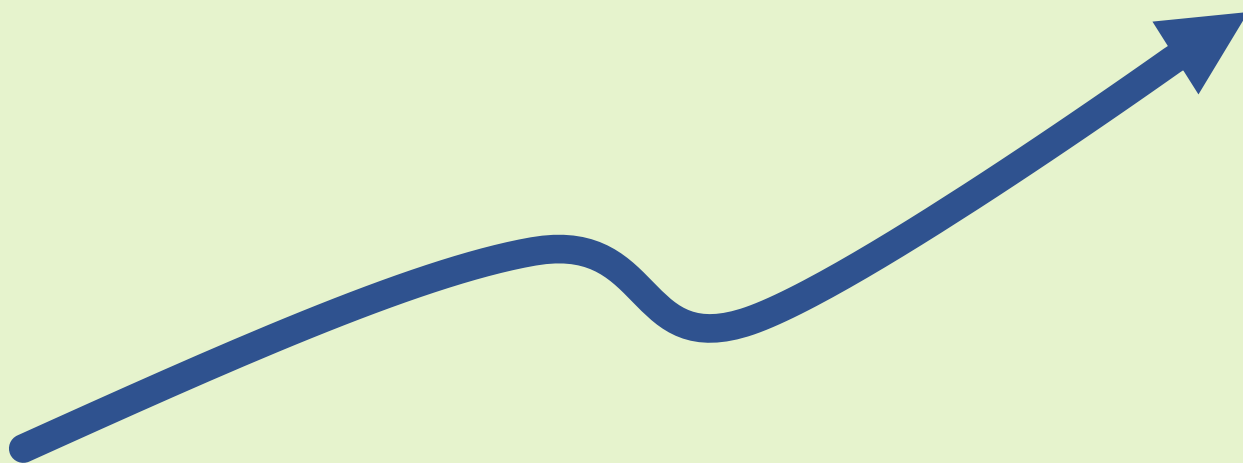


特別支援教育における
ICTを活用した教育を推進するために

推進ガイド

【特別支援学校編】



国立特別支援教育総合研究所

重点課題研究
ICTチーム

写真は、ICT等を活用した障害のある児童生徒の指導・支援を積極的に行っている学校(都道府県教育委員会の推薦)の取組から

ICTを活用した授業の様子



タブレットを用いた話し合い



タブレットを用いた遠隔授業



バザーでの販売活動(オンラインでの参加)



VRゴーグルを用いた授業

ICT教育の推進



環境整備

(環境整備のコンセプト)

取組を推進する
ための機器
の整備

教員が機器を
利用しやすい
環境整備

【推進ガイドについて】

この推進ガイドは、自校の実情や状況を振り返り、ICT活用を先進的に取り組んでいる学校のアイデアや工夫、エッセンスを参考やヒントにして、自校に応じたICT活用推進の方向性や具体的な取組を考えるために活用していただくことを目的に作成しています。

複数人でチェックを付け、重点的に取り組む優先順位や具体的な方策を皆さんで協議しましょう。



在籍校と特別支援学校をオンラインでつないだ遠隔授業

校内体制



ICT活用の実践について教員同士で語り合う会



校内研修会



(環境整備の仕方)

外部機関等の
リソースの活用
(必要に応じて)

ICT等を活用した障害のある子供の指導・支援を推進するために

GIGAスクール構想により、全国の学校にICT環境が格段に拡充されました。

特別支援教育においても、教員がICT環境や先端技術を効果的に活用することにより、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実及び子供への支援の充実が可能になると期待されています。一方で、急速にICT環境が整備される中で、様々な障害種において、支援機器や教材の充実と、その選定や入手、児童生徒が十分に活用できるような指導・支援を担う教員の専門性なども課題となっています。

そこで、特別支援学校において1人1台端末環境におけるICT活用を推進するために、全国の先進的に取り組んでいる学校に対して、どのようにして先進校となることができたのか、そこで行われてきた実践の特色や成果についての調査を行い、それらの結果から、ICT等を活用した障害のある子供の指導・支援を推進するための取組についてまとめました。

学校の管理職、校内のICT活用を推進するリーダー的立場の教員の方を中心に、このガイドを活用していただき、自校ができていているところ（長所、強み）、どちらともいえない、できていないところ（課題等）を把握することで、自校のICTを活用した教育の現在の状況や、今後重点的に取り組む必要があること、その具体的な方策、目指す姿を明らかにし、各学校のICT活用の推進、指導・支援の充実、そして一人一人の子供たちの自立や社会参加へとつなげていきましょう。

※本ガイドでは、都道府県教育委員会から推薦のあったICT等を活用した指導を積極的に行っている学校を、先進校と表記しています。

「ICTを活用した教育のための推進マップ」

令和3～4年度に都道府県教育委員会から推薦のあった「障害のある子供へのICT等を活用した指導を積極的に行っている13の学校」から「どのようにしてICTを活用した教育の先進校になることができたか」について聞き取り調査を行い、その結果を整理したものです。

この推進マップの全体を眺めて、それぞれの取組や工夫の相互の関連性や、つながりを押さえながら、自校のICTを活用した教育の推進について考えてみましょう。

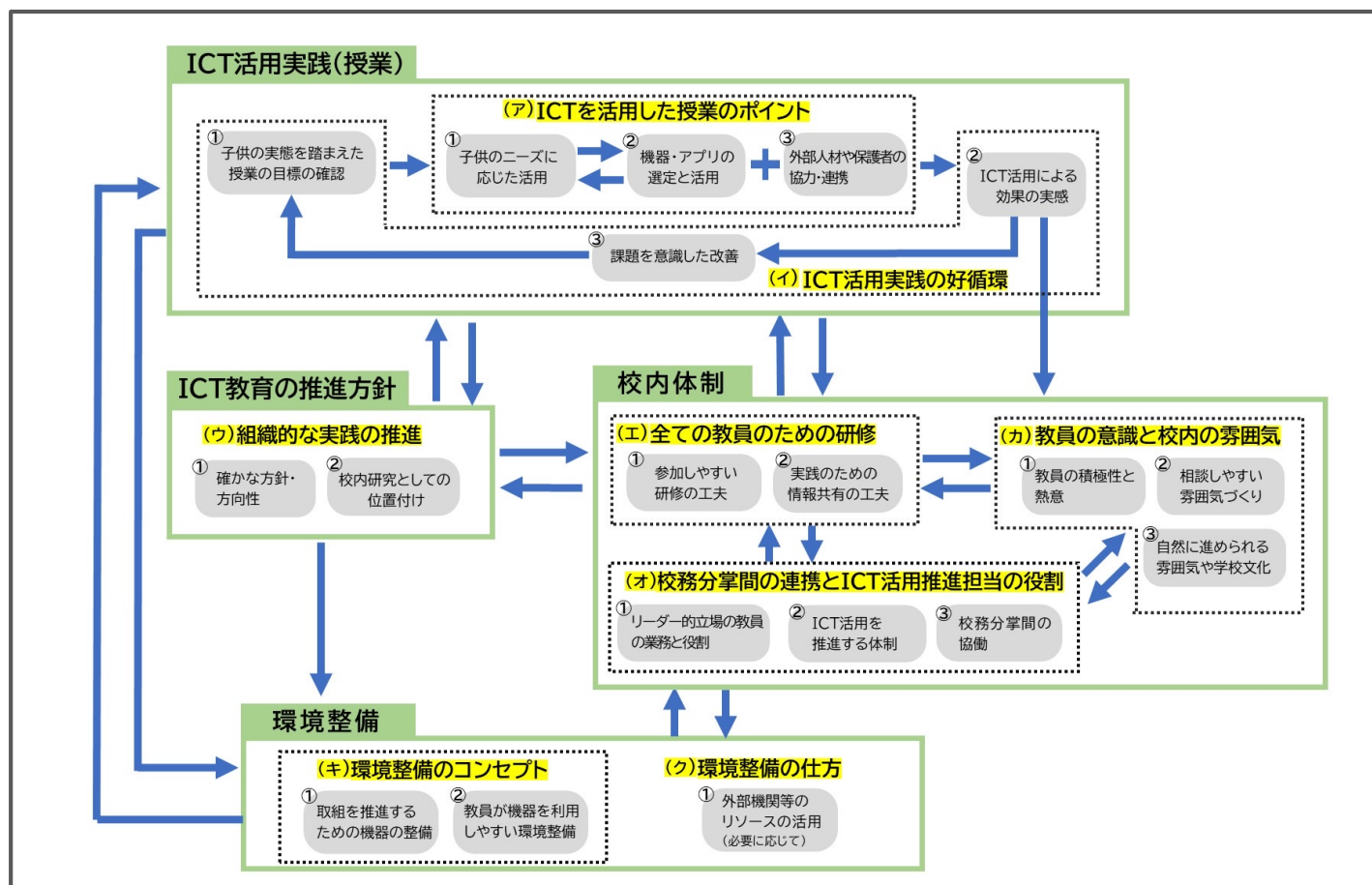


図1 ICTを活用した教育の先進校の実践を集約して作成した推進マップ「いかに先進校となったのか」

各校でICTを活用した教育を推進するためのチェックリスト

「ICTを活用した教育のための推進マップ」にある各項目のチェックリスト(P.14参照)です。

このチェックリストを用いて、自校ができているところ(長所、強み)、どちらともいえない、できていないところ(課題等)を把握することで、自校のICTを活用した教育の現在の状況や、今後重点的に取り組む必要があること、その具体的な方策、目指す姿を明らかにしましょう。

特別支援学校におけるICT活用を推進するために必要な観点 チェックリスト

【チェックをした日にち】
年 月 日
(氏名)

I. 自校の状況把握

大項目	中項目	小項目	できている	どちらとも いえない	できてい ない	重点的に取り組む 必要がある
ICT活用実践(授業)	(ア) ICTを活用した授業のポイント	① 子供のニーズに応じた活用				
		② 機器・アプリの選定と活用				
		③ 外部人材や保護者の協力				
	(イ) ICT活用実践の好循環	① 子供の実態を踏まえた授業の目標の確 認				
		② ICT活用による効果の実感				
		③ 課題を意識した改善				
ICT教育の推進方針	(ウ) 組織的な実践の推進	① 確かな方針・方向性				
		② 校内研究としての位置付け				
		③ 参加しやすい研修の工夫				

うちの学校はこんなことが
できているんだ!
次は何に取り組んでいくと
よいだろうか?



チェックを付けて、自校のできて
いるところ(長所)と課題等を把
握する。

複数人で行い、チェックしたもの
を持ち寄って、今後校内で重点
的に取り組むことを協議する。

II. 自校のICT活用の推進に向けた重点的取組と方策案

重点的に 取り組む 優先順位	取り組む項目	具体的な方策案
1		
2		
3		

ICT活用を推進するために、
・何から取り組むか?
(目標の優先順位)

・どのように取り組むか?
(具体的な方策)

・何ができるようになるか?
(目指す校内の姿)

特別支援学校におけるICT活用を推進するために必要な観点

チェックした項目に関する、先進校の取組の実際を見てみましょう。

各学校の取組やアイデアを参考にしたり、自校なりにアレンジして取り組みましょう。

大項目	中項目	取組の実際
ICT活用実践 (授業)	(ア) ICTを活用した授業のポイント	⇒ P.6
	(イ) ICT活用実践の好循環	⇒ P.7
ICT教育の推進方針	(ウ) 組織的な実践の推進	⇒ P.8
校内体制	(エ) 全ての教員のための研修	⇒ P.9
	(オ) 校務分掌間の連携とICT活用推進担当の役割	⇒ P.10
	(カ) 教員の意識と校内の雰囲気	⇒ P.11
環境整備	(キ) 環境整備のコンセプト	⇒ P.12
	(ク) 環境整備の仕方	⇒ P.13

なるほど!
こんな取組ややり方が
あるんだ!
うちの学校だったら
どうしたらいいかな?



※表の項目順は、P.4の推進マップの配置に基づいて示しています。(ア)～(ク)は優先度、重要度を示すものではありません。

その他の取組の実際については、「ICTを活用した教育を推進するために参考となるポイント別リンク集」
(本ガイド P.15～)にある都道府県等のWebページをご覧ください。

ICT活用実践(授業)

(ア)「ICTを活用した授業のポイント」とは？

Keyword: 子供の具体的なニーズ、機器やアプリの選定、外部人材との連携、保護者との協力



まずは、一人一人の子供の合理的配慮を含む具体的な教育的ニーズを出発点に、指導のねらいや指導内容を達成するための、その子供に応じた機器やアプリを選定して活用していきます。

子供にとってのよりよい機器の活用方法の検討や、効果・実践の成果の検証・確認をするためには、必要に応じて外部人材と連携しましょう。子供が身に付けた力を家庭等の生活の中でも発揮していくためにも、保護者との情報共有や連携、協力を深めていきましょう。

取組の実際

①子供のニーズに応じた活用 ②機器・アプリの選定と活用

重度重複障害のある子供の表出



重度重複障害のある子供たちの意思表出を促進するために、視線入力装置や、Leap Motion、Moffバンドといったセンサーとアプリを組み合わせて活動に取り組んでいます。

訪問教育で学校の様子を伝えるために

タブレットはzoomに接続したまま持ち運びができるので、友達の様子や校庭の季節の風景など学校の様々な様子をリアルタイムで伝えることができます。



前籍校との学習とのつながりの支援や、友人関係の不安定さを支援するために

自立活動の内容にある「心理的な安定」「人間関係の形成」を達成するために、Zoomや遠隔ロボットを使って病院と学校や前籍校とつないだり、専門家とつないだり、病院と家庭や、病室同士をつなぐことを継続的に行っています。



③外部人材や保護者との協力・連携

保護者への支援

オンライン授業をするにあたり、保護者の協力を得るために、家庭・保護者用の機器の使い方、接続の仕方などの手順書を作って、分かりやすく説明しています。



毎年、保護者に、家庭での情報機器の活用についてのアンケートを取っています。それを基に家庭での機器の活用や情報モラル、ルールの指導について教員で検討しています。

保護者との協力

保護者がOriHimeのことを知っていたことがきっかけになり、学校と家庭をつないだ利用につながっています。



外部人材との連携

感染症対策で病棟への入室が制限されているので、機器の設置や接続を看護師に協力してもらって遠隔の授業を実施しました。



ICT活用実践(授業)

(イ)「ICT活用実践の好循環」とは？

Keyword: 子供の実態、授業の目標、活用効果の実感、課題を意識した改善



授業を中心とした指導や支援にICTを活用するときには子供の実態を踏まえ、その授業本来の目標を押さえて指導や支援を行い、ICTの活用の実感して、次の計画に活かしていく、計画・実施・評価・改善のPDCAサイクルの好循環を意識して取り組みましょう。

教材・教具としてのICT活用の良さや効果を、教員・子供がそれぞれ実感できるようにするとともに、課題を整理し、教員間で共有しながら授業改善を進めていくことがICT活用実践の好循環につながり、さらに教員の意識や校内のICT活用推進の雰囲気にも好影響を与えます。

取組の実際

①子供の実態を踏まえた授業の目標の確認

授業本来のねらい



機器を利用することが目的ではなく、機器を利用した授業を通して、子供に何を教えるか(子供が何を学ぶか)、子供が何ができるようになるかを大切にしたいです。

自立活動の指導場面におけるICT活用

自立活動の指導では、まず子供の実態を踏まえた指導の目標をきちんと押さえ、その上で実態と目標に応じた教材・教具を考えます。ICT機器もその中の1つの選択肢だと考えています。



②ICT活用による効果の実感

子供が学ぶ様子を把握できる



VRゴーグルを用いた授業では、教師が画面を通して生徒の思考のプロセスを、視覚的に確認することができ、指導や支援につなげることができました。

子供の成長を把握し、保護者と共有できる

オンライン授業の動画での記録を学期末に振り返ることで微細な子供の表情の変化や動きを客観視でき、適切な評価につなげることができました。また、動画で保護者とも具体的な子供の姿を共有することができました。



ICTを活用した課題の解決

従来の手作り教材では難しかったバリエーションを増やすことや、教材の置き場所の課題が解決されました。



授業で点字ディスプレイを使用することで、課題を生徒とデータでやりとりでき、1コマの授業で取り扱える学習量(情報量)が増えました。

③課題を意識した改善

実践を進めながらの授業改善と情報共有

実際に遠隔授業を進めるとICTが有効な場面と有効でない場面といった活用の限界を、教員も改めて実感することができました。気付いた課題を毎回授業後に振り返って、音声や映り方、子どもに分かりやすい投げかけ方を検討し、学部みんなで共有して改善していきました。



ICT教育の推進方針

(ウ)「組織的な実践の推進」とは？

KeyWord: 確かな方針・方向性、管理職、校内研究



ICTを活用した教育を推進していくためには、管理職が中心となって校内体制の構築、計画的な予算の確保を進めると同時に学校としての具体的で確かな方針・方向性を職員全員が共有し、一丸となって研究や実践に取り組んでいくことが大切です。

校内研究として位置付けて集中的に取り組むなど、組織的に取り組んでいくことで、職員一人一人が自分事として考えるようになり、ICTを活用した実践の充実や校内体制の見直し、計画的な環境整備へとつながっていくでしょう。

取組の実際

①確かな方針と方向性

子供の将来を見据えた計画的な指導



ICTの活用の目的の一つは、子供たちのQOLの向上だと考えています。標準搭載のアプリやアクセシビリティ機能を十分に活用し、小学部から使い始め、中学部・高等部で様々な使い方を学んで子供たちを社会へ送り出したいと考えています。

管理職のリーダーシップと明確な方針

管理職が中心となり、先生方からの声を吸い上げ、様々な情報を集めながら校内体制の調整、予算の確保などを臨機応変に進めていったことが、臨時休校などに対応しながらの迅速なICT環境の整備、活用の推進、子供たちの学びの保障につながっていました。



方向性の共有と共通理解

学校の運営計画(グランドデザイン)に、ICTの活用推進に関する目標と目指す姿、キャッチフレーズを示して共通理解を図ることで、先生方が同じ方向を目指して取り組むことができました。



②校内研究としての位置付け

教員一人一人が自分事として取り組み、学校全体で推進するむために



県のICT活用推進事業がきっかけとなり、校内研究のテーマと連動させて取り組むことで先生方にも浸透してきています。

校内研究のテーマとしてICTに取り組むことで一人一人が意識的に取り組んだり、相互に実践の共有が図られたりしています。



予算確保や大学等との連携

ICT活用の研究指定校になることで、機器を整備する予算を確保できました。また、大学等と連携することで指導助言をもらって実践を充実させることができました。



校内体制

(エ)「全ての教員のための研修」とは？

Keyword: 参加しやすい、研修の工夫、実践の共有



校内で必要とされる内容を取り上げるためのニーズ調査、推進役のリーダーが率先してのOJTの活用、研修の形態や内容の調整など、全ての教員が参加しやすい研修を目指した工夫を続けていきましょう。また、個々の教員からあった問い合わせも含めた様々な実践に関する情報を全校で共有することは、教員間のコミュニケーションを増加させることにつながり、ICT活用をさらに充実させる効果も期待できます。

取組の実際

①参加しやすい研修の工夫

教員のニーズを把握した研修



定期的にアンケートを取って、先生方から研修ニーズを把握してから研修を実施しています。

内容や難易度を選択できる研修



選択制のグループ研修を、複数回実施しています。管理職も含めて、多くの先生に参加してもらっています。

短時間で自由に参加できる研修

1回が15分くらいで、自由に参加できる研修を、定期的実施しています。気軽に参加できるがキーワードです。



実際に機器を操作する研修

マニュアルも作成しますが、その場で実際に触ってみて、その場で先生同士が教え合うことを意識した研修を実施しています。実際に機器を操作すると、使い方を覚えてくれます。



②実践のための情報共有の工夫

定期的な情報交換



全学部の先生が月に1回程度集まって、ICTを活用した実践について語り合う会を行っています。

データの蓄積と引き継ぎ

使用した教材や学習の成果物をデータで蓄積して、進級・進学するときの引き継ぎにも活用しています。



グループウェアの活用



実践内容や作成した教材を、グループウェア等で共有しています。実践を紹介し合うことで、「データちょうだい」「うちもこれやってみたよ」など、先生の学び合いにつながりました。

校内体制

(オ)「校務分掌間の連携とICT活用推進担当の役割」とは？

Keyword: 活用推進リーダー、コーディネート、業務と役割、推進体制、校務分掌間の連携



分掌メンバー一人一人が、各自で人任せにせずに課題意識を持ち、その上で複数の分掌で協働していくことが学校全体のICT活用の底上げの基盤となります。さらに、さまざまな調整管理、初歩的な質問にも対応する相談しやすい窓口、情報共有や研修の実施、後進の育成を視野に入れた取組を担うなどさまざまな役割を担うリーダー的立場の教員がいるとさらにICT活用を進めていくことが可能になります。

取組の実際

①リーダー的立場の教員の業務と役割

学校全体への情報発信

質問が出たときには、質問者だけに回答するのではなく、グループウェアなどを活用して、全体に伝わるような回答の仕方を心がけています。同じような悩みを抱えている方がいるので、「これに悩んでいるの私だけじゃないんだ」と知って、前向きになってくれます。



情報機器利用の推進・効果的な活用につながる情報提供



まず「こんな機器がある」ということを理解してもらい、その次に「こんな使い方をしてみたい」という相談に対応しています。子供の実態や授業の内容などを聞いて、ICT機器の効果的な活用方法を一緒に考えるようにしています。

ICT活用が苦手な教員にも寄り添う姿勢

学校の中にICTが苦手な先生がいるのは当たり前で、丁寧に寄り添っていくことが、実は活用推進の近道だと感じます。



②ICT活用を推進する体制

後進育成の視点とチームでの対応



引継ぎと業務分散を意識して、担っている業務には複数で対応するようにしています。

まずは分掌のメンバーが機器操作などについて答えられるように勉強して、それから校内研修で広げていきました。



③校務分掌間の協働

役割の明確化と分担



機器の購入は教務部が中心になり、校内研修のうち、特にICT活用に関する内容は研修部と情報支援部で企画して取り組むなど校務分掌間で連携、協力して取り組んでいます。また、情報支援部の業務も校内ネットワークの管理と、ICT活用教育推進担当に分けるなど、ICT関連のことに詳しい一人の人だけに偏らないように分担して取り組んでいます。

校内体制

(カ)「教員の意識と校内の雰囲気」とは？

Keyword: 積極性、熱意、雰囲気、学校文化



ICT活用を積極的、継続的に進めていくためには、疑問点などを質問しやすく、身近な教員同士で気軽に教え合ったりする校内の雰囲気づくりや、ICT担当者もできる限り全体で情報を共有し、早期に解決できるように取り組んでいくことが、教員全体の底上げにつながっていきます。

このような教員相互での身近な支援が定着すれば、担当者が異動してもICT活用が継続される状態になり、全校でICT活用が文房具のように自然に利用される状況となっていきます。

取組の実際

①教員の積極性と熱意

子供のニーズに応えるために



さまざまな事情で登校できなかった子供の不安やもどかしさを、少しでも解消したいと考え、ICT機器を活用したオンラインでの学習に取り組んでみました。

機器を、子供自身がよりよく活用できるようになったり、子供たちの指導に還元できるようにしたいという意識があります。



②相談しやすい雰囲気づくり

計画から実践までサポート



機器を使用する場合には、計画段階から情報部のメンバーが身近にいて、こんな機器がある、こんなふうに使えるということを伝え広めています。実際の授業にも、情報部がついて行くなど支援を行なっています。

相談シート等の活用

ICT活用相談シートを作って、困っていることがあれば提出してもらっています。出された相談には、しっかりと時間を取って対応しています。



内容によって相談する相手を選ぶ

自分が知りたいことや、取り組んでみたいことによって相談できる人が校内に複数いる体制を作り、先生方へ周知しています。

③自然に進められる雰囲気や学校文化

機器が当たり前にある環境づくり

まず機器を導入して、しばらくは先生自身が自由に、機器に触れいろいろと試してみる期間を経ると先生が使えるようになって、意識が変わります。あるのが当たり前の道具になると、先生も当たり前を使うようになります。当たり前を使うと、当たり前で教え合うようになります。



環境整備

(キ)「環境整備のコンセプト」とは？

Keyword: 機器の整備、利用しやすい環境整備



子供の実態に応じたICT活用の取組を推進するために、必要な機器やアプリ、入出力機器や固定具等の整備が、各学校、都道府県により随時進められています。

子供が必要な時にすぐに使用できるような機器等の数や環境、教員が教材研究をしたり、すぐに指導に活用できるような利用しやすい管理方法などをそれぞれの学校の状況に応じて工夫しましょう。こうした環境整備の工夫が、ICT活用実践（授業）の充実や、教員の意識の向上、校内のよりよい雰囲気等につながっていくでしょう。

取組の実際

①取組を推進するための機器の整備

1人1台端末とWi-Fiの整備



GIGAスクール構想で1人1台端末の整備が進み、さらにWi-Fiも整備され、すべての教室で無線接続で使えるようになったので、授業でiPadがとても使いやすくなりました。

個々の子供に合わせた機器の整備と設定

それぞれの生徒に合わせてiPadの機能を設定し、同じ機器を継続して使用できたことが、活用定着に繋がりました。また、本校の子供の実態にあった機器を学校の予算で整備を進めています。



②教員が機器を利用しやすい環境整備

活用状況もわかる機器の一覧表



機器の活用状況の一覧表を作成し、どの機器が何の目的でどのくらいの回数使用されたかが分かるようにしました。どんな機器をどんな場所や時間に使っているかがわかるようになったことが活用の参考となり、みんなが使うようになっていきました。

ICT活用のための部屋の設置

視線入力装置などの各種入力機器や固定具、パソコンなどを集めたという自立活動の専用の部屋を用意しています。専用の機器を設置しているので、この部屋に来たらICTを使った自立活動がすぐに始められます。



環境整備

(ク)「環境整備の仕方」とは？

Keyword: 外部機関等のリソースの活用



ICT活用の取組を推進したり、必要な機器整備や環境整備を進めていくために、外部機関と協力・連携したり、リソースを有効活用することも検討してみましょう。

学校だけではできない取組が、外部機関と相談し協力したり、双方の「強み」を生かして連携することで、よりよいICTを活用した実践につながっていくでしょう。

取組の実際

①外部機関等のリソースの活用（必要に応じて）

高専・工業高校との協力・連携



iPadの画面を直接タップすることが難しい子供たちのために、市内の工業高校が技術交流でタッチャーを作ってくれています。工業高校の生徒も自分たちが作った機器を使ってもらえるので喜んでいます。

大学との協力・連携



オンライン授業を始めるにあたり、近隣の大学の研究室へ相談したところ、試行するために機器を貸し出してくれました。使い方を教わったり、テストしたりしたのち、本校でもオンライン授業を配信するための放送室を作り、機器を配備しました。

教育委員会との協力・連携

iPadが導入されるときに教育委員会が研修を行ってくれました。インターネットへの接続やいろいろなオンラインツールの使い方などについての研修を密にならないように少人数でオンラインツールを活用して実施しました。



地域の関係機関との協力・連携

保健所が所有していたOriHimeを借りることができました。インターネットに接続するためのポケットwi-fiも借りることができました。すぐに接続して使うことができたので助かりました。



特別支援学校におけるICT活用を推進するために必要な観点 チェックリスト

【チェックをした日にち】

年 月 日
(氏名)

I. 自校の状況把握

大項目	中項目	小項目	できている	どちらとも いえない	できていな い	重点的に取り組 む必要がある
ICT活用実践(授業)	(ア) ICTを活用した授業のポイント	①子供のニーズに応じた活用				
		②機器・アプリの選定と活用				
		③外部人材や保護者の協力				
	(イ) ICT活用実践の好循環	①子供の実態を踏まえた授業の目標の確認				
		②ICT活用による効果の実感				
		③課題を意識した改善				
ICT教育の推進方針	(ウ) 組織的な実践の推進	①確かな方針・方向性				
		②校内研究としての位置付け				
校内体制	(エ) 全ての教員のための研修	①参加しやすい研修の工夫				
		②実践のための情報共有の工夫				
	(オ) 校務分掌とICT活用推進担当の役割	①リーダー的立場の教員の業務と役割				
		②ICT活用を推進する体制				
		③分掌部間の協働				
	(カ) 教員の意識と校内の雰囲気	①教員の積極性と熱意				
		②相談しやすい雰囲気づくり				
		③自然に進められる雰囲気や学校文化				
環境整備	(キ) 環境整備のコンセプト	①取組を推進するための機器の整備				
		②教員が機器を利用しやすい環境整備				
	(ク) 環境整備の仕方	①外部機関等のリソースの活用				

II. 自校のICT活用の推進に向けた重点的取組と方策案

重点的に 取り組む 優先順位	取り組む項目	具体的な方策案
1		
2		
3		

- ① できている、できていないの絶対的な基準はありません。
各校の実情に合わせて、多様な視点からチェックを付けてください。
- ② 複数人でチェックを付け、重点的に取り組む優先順位や具体的な方策を皆さんで協議しましょう。
- ③ 重点的に取り組む必要があることは、自校の「できている」強みをさらに伸ばす取組や、強みを生かして課題へアプローチする取組、課題について重点的に検討を始める必要があることなど、多角的にとらえてチェックを付けましょう。

ICTを活用した教育を推進するために参考となるリンク集

ICT活用ポータルサイト (北海道)

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等の教員や保護者へICTを活用した教育についての情報を提供するためのウェブページ。授業のヒント、デザイン、ICT活用ミニハンドブック、ICT活用研修プログラム、プログラミング教育、情報モラル・セキュリティ、特別支援教育におけるICT活用など様々な視点からコンテンツが豊富に用意されている。



特別支援学校におけるICTを活用した確かな学力向上事業 (青森県)

教員のICT活用指導力を向上させ、特別支援学校の児童生徒の学力向上や、ICTをコミュニケーションツールとして活用し社会性の向上を図るため障害種に応じたICTを活用した実践研究や学習教材コンテンツの蓄積・共有を図る事業の成果として、県内の特別支援学校が活用したiPadのアプリ等を集約し、その活用方法等を紹介している。



特別支援教育のための学習支援応援サイト (宮城県)

令和2年度と令和3年度の県立特別支援学校のICT機器を活用した取組計67事例が紹介されている。各取り組みは、「活動名」、「対象」（学部、教員、保護者）、「内容と取組の様子」（写真付き）、「使用したツール」、「おすすめポイント」、「さらに工夫したいこと」がまとめられている。



教材・支援機器ポータル (福島県)

「障がい種・診断名等」「学校 学校種等」「教科等」「検索キーワード」などの項目ごとに、教材・支援機器を分類して特別支援教育で活用できる教材・支援機器を紹介している。タブレット型端末を含めたICT活用に関する事例も多く紹介されている。



大阪の児童生徒が1人1台タブレットPC端末等を活用した実践事例等について (大阪府)

「GIGAスクール構想の実現」により整備された1人1台タブレットPC端末等のICT機器を活用した授業等における実践事例を紹介している。特別支援学級については、小学校特別支援学級46事例、中学校特別支援学級35事例が紹介されている。



おかやまICT活用実践事例集 (岡山県)

児童生徒の主体的な学習活動につながるICT活用事例を、「校種」（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）、「教科」、「活用シーン」（例：データの共有、思考を促す）、「学習場面」（例：家庭学習、反転学習）、「活用段階」（ステージ1・2・3）を絞って検索できる。（岡山県総合教育センターのサイトへリンク）



ICT活用授業&探求ライブラリポータルサイト (大分県)

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校におけるICT活用授業の優良活用事例と、探求的な学びの実践事例を検索することができるポータルサイト。実践事例をキーワードで検索をしたり、学校種別、学年、教科、（※領域を含む）指導の形態、教員／生徒が使用したツール、機器の項目で、フィルタをかけて簡単に検索したりすることができる。紹介している実践事例については、「子供の困り」、「解決の方策・手立て」、「実践の様子」等について簡潔に紹介されている。閲覧者はそれぞれの実践事例（記事）に対してコメントを投稿することができる。



ICTを活用した教育を推進するために参考となるリンク集 (つづき)

特別支援学校におけるICTの効果的な活用の在り方 (福島県) 令和3年度

特別支援学校の授業におけるICTの効果的な活用を通して、情報活用能力を育成し、各教科等の指導の充実を目指すことを目的として実施された研究の報告書。特別支援学校5校の研究授業の報告と研究授業から整理されたICTの効果について考察している。(令和3年度福島県特別支援教育センター研究紀要)



今日からやってみよう！特別支援学級におけるICT活用 (群馬県) 令和4年2月発行

特別支援学級に在籍する児童生徒を担当する教員向けのリーフレットで、児童生徒の特性を生かしたICT活用の実践例が「各教科等におけるICTの活用例」としてまとめられている。また「取り扱いやモラルについての実践例」の紹介もある。リーフレットを活用することで、授業等の中にICTが積極的に取り入れられ、児童生徒の学びの可能性が広がり、資質・能力が向上していくことをねらっている。



「GIGAスクール構想」時代のICT活用ガイド (埼玉県) 令和3年3月発行

ーICT活用レシピ 特別支援学校版ー

特別支援学校における活用事例を学部・教科ごとに9例紹介し、児童生徒約1人1台端末のICT環境における具体的な学びのイメージを示すとともに、指導にすぐ活かせるよう活用のポイントを「活用レシピ」として紹介している。



令和3年度ICT活用実践事例集 (愛媛県) 令和4年3月発行

各校の学校教育活動において、ICTを効果的に活用するための参考資料として、愛媛県下の実践事例を集約したものである。各事例は1ページにコンパクトにまとめられている。第3章は「特別支援教育におけるICT活用実践事例」として35例の事例を紹介している。



特別支援学校におけるICT活用の手引き (長崎県) 令和2年12月発行

平成30年度～令和元年度において、長崎県内すべての特別支援学校から収集したICT活用事例11事例を、5つの目的別(①情報入手、②意思伝達、③時間管理や活動の見通しを持つ、④活動の振り返りや自己評価を行う、⑤思考を整理したり分かりやすく発表したりする)に整理し、それぞれの具体例と活用のポイント(ICTを活用する目的、児童生徒の実態例、活用のポイントと留意点、機器やアプリ等)について紹介している。校内研修、個人研修の資料として活用することを目的に、作成されている。



ICT活用実践事例集 GIGAスクール構想研修パッケージ特別支援教育編 (熊本県) 令和4年度

ICTの活用による学習支援の実践について、はじめに視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害等について、概要を簡潔に示した後、障害ごとに、実際に行った授業例63例を学部・学年を示した上で、取組内容とその効果、その取組におけるICT活用のポイントに触れている。一つの実践につき1ページでコンパクトにまとめている。



研究協力機関

青森県教育委員会

京都府立舞鶴支援学校

ICT活用推進マップ作成のために、御協力いただいた学校

北海道旭川養護学校

青森県立八戸第一養護学校

茨城県立水戸特別支援学校

群馬県立盲学校

埼玉県立けやき特別支援学校

大阪府立なにわ高等支援学校

広島県立広島西特別支援学校

広島県立尾道特別支援学校 しまなみ分校

広島県立福山北特別支援学校

山口県立周南総合支援学校

徳島県立ひのみね特別支援学校

山口市立鑄銭司小学校

紀の川市立竜門小学校

この推進ガイド（「ICTを活用した教育のための推進マップ」、「特別支援学校におけるICT活用を推進するための必要な観点チェックリスト」）は、令和3年度～令和4年度 重点課題研究「ICTを活用した障害のある児童生徒の指導・支援に関する研究」の研究成果を基に作成しています。

研究成果及び各校から聞き取りをした情報を整理し、推進ガイド用に編集したものです。



特総研Webページ
報告書QRコード



国立特別支援教育総合研究所